

お知らせコーナー 当院に新たに着任された医師を紹介します。

呼吸器内科

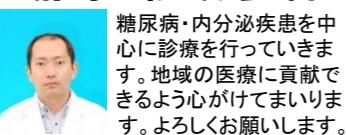
足立 崇 医師



呼吸器内科スタッフとして少しでも皆さんのお役に立てる様、日々の診療に取り組みますのでよろしくお願いします。

内分泌・代謝内科

清水 裕史 医師



糖尿病・内分泌疾患を中心診療を行っていきます。地域の医療に貢献できるよう心がけてまいります。よろしくお願いします。

眼科

富田 遼 医師



眼科医として、地域の医療に貢献できるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

産婦人科

関谷 陽子 医師



地域の女性の皆さんのお役に立てる様に日々診療してまいります。よろしくお願いします。

産婦人科

川地 史高 医師



産婦人科一般につき専門としております。どのような事でも気軽にご相談下さい。やさしく丁寧におこなえするよう努めてまいります。よろしくお願いします。

腎臓内科

高田 充弘 医師



腎臓内科スタッフとして週2度の外来診療及び入院診療を行っています。皆さんのお役に立てるよう取り組みますのでよろしくお願いいたします。

皮膚科

山北 高志 医師



皮膚科疾患はアレルギーから感染症、自己免疫疾患やがんなど幅広い疾患が含まれています。目に見える病気ですので気軽にご相談にお越しください。

整形外科

成田 高太郎 医師



7月から整形外科医師として働いています。地域の方々が健康的な生活を送れるように頑張っていきますので、よろしくお願いします。

整形外科

三竹 辰徳 医師



私は細かい作業が好きで、手の外傷・疾患の研鑽を積んで参りました。患者さんの立場に立ち、手術的治療だけでなく保存的治療まで幅広い診療をします。よろしくお願いします。

消化器内科

平松 美穂 医師



消化器内科スタッフとして、知多の医療に貢献できるように頑張りたいと思います。地域に根ざした医療として皆さんのお役に立てるよう、日々精進したいと思います。

循環器内科

山村 由美子 医師



最近気になるあの症状「ドキドキ・胸の違和感・息切れ」これらが心臓の症状なのか気軽に相談できるような医師でありたいと考えております。よろしくお願いします。

脳神経外科

前田 晋吾 医師



得意分野は脳血管内治療、また直達手術を駆使した脳血管障害の治療です。知多半島北西部地域医療の拠点として、最良の医療を提供できるように邁進したいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

脳神経外科

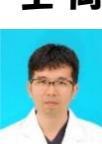
脳神経外科



生まれ育った知多半島で勤務できることを大変喜ばしく思っています。少しでも皆さんのお力添えができるように誠意頑張りますのでよろしくお願いします。

放射線科

上岡 久人 医師



主にCT,MRI,核医学検査の画像診断を行っています。患者さんと直接接する機会は少ないですが、画像診断を通して地域の皆さんのお役に立てるよう努力して参りますのでよろしくお願いします。

放射線科

吉安 裕樹 医師



放射線科という、皆さんにあまり馴染みのない科では、皆さんが撮られたCTやMRIなどの画像を読影することで、少しでも高度な医療を行えるよう貢献して参りたいと思っています。よろしくお願いします。



慢性腎臓病市民公開講座 「すばらしい腎生をあなたに」

ご案内

日時 10月2日(日)
13時30分～16時00分
場所 知多市勤労文化会館
つじホール
講演者 山田 寿一
(消化器内科部長)
久志本 浩子
(腎臓内科部長)

腎臓病患者さんやその家族、腎臓病に興味のある人たちを対象としています。是非ご参加ください。

糖尿病市民公開講座

ご案内

日時 10月29日(土)
第1部 午前10時から正午まで 講義形式
第2部 午後1時から午後2時まで フィットネスセミナー
場所 公立西知多総合病院 2階講堂
講演者 第1部 丹村敏之 知多厚生病院副院長
第2部 小田有紀子 フィットネスインストラクター
その他 第2部はタオルをご持参ください。

糖尿病について楽しく学べます。締切は10月21日、参加費は無料です。健診センターにお申込みください。

第1回 口コモ予防教室 のご案内

ご案内

日時 10月3日(月)
13時30分から15時30分まで
場所 公立西知多総合病院 2階講堂
内容 医師による講話、口コモテスト及び判定と説明、
口コモ予防体操
対象者 40歳以上70歳未満で整形疾患のない方
その他 第2部はタオルをご持参ください。

参加費無料です。健診センターにて受け付けておりますので、お申込みください。



公立西知多総合病院だより

vol. 4
2016年
4号



西知多総合病院DMAT隊 ～激震の熊本へ～

イベント紹介
ホスピタリティコンサート
知多半島がん化学療法サポートセミナー

ICLS講習会
救急・集中治療セミナー in 西知多

部署紹介 フラジャイル～病理診断科～

お知らせコーナー
新任常勤医紹介
イベント予定



公立西知多総合病院だより 第4号

2016年8月発行 編集:広報図書委員会 発行:公立西知多総合病院

西知多DMAT隊 ～激震の熊本へ～

西知多DMAT隊
医師 新美 太祐(麻酔科)



DMAT(ディーマット)とは

DMATとは災害現場に出動し救命医療を提供する機動性を持った医療チームのこと。災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Team の頭文字をとて略してDMAT(ディーマット)と呼ばれています。

それは阪神淡路大震災の反省から

平成7年(1995年)1月17日に発生した阪神淡路大震災後、日本の医療に欠陥がある事が明らかとなりました。それは大規模災害時の初期医療体制の遅れでした。

避けられた災害死が500人

被災地では病院も被災していて機能しておらず、その中で24~72時間以内に初期治療・安定化して広域搬送することで救命し得た被災者が約500人いたと言われています。

災害現場での医療

このような時、災害現場に迅速に赴き医療を展開するのがDMATです。DMATは全国から集められ、災害現場だけでなく被災した病院の活動支援、重症患者のヘリコプターなどを用いた広域搬送、避難所や救護所の巡回、というように幅広く活動します。



現地のDMAT本部



被災した病院内部

拠点と情報システムも

DMAT・広域搬送と共に確立されたのが災害医療を担いヘリポートを備えた災害拠点病院と、災害時に医療情報を伝達する広域災害救急医療情報システム(EMIS)でした。これらの体制下でDMAT隊は県からの要請を受けて出動し、他地域からの複数のDMAT隊と連携し組織的に動くだけでなく消防・警察とも連携します。

4月18日 西知多DMAT隊は県からの要請を受け、熊本地震の震災地へ派遣されました。

熊本地震発生

4月14日に発生したマグニチュード7.3の熊本地震で、全国のDMATに待機要請がかかり、九州エリア・近畿エリアと次々に出動要請が出されました。

4月16日の地震で被害が拡大し、中部エリアのDMATにも要請がかかり、4月18日に当院5名のDMAT隊員で熊本に向け出発しました。



職員一同で出発式を行いました。



熊本県阿蘇地域へ到着

4月19・20日の2日間、被害が大きかった阿蘇地域に派遣され活動しました。現地に入った頃には地震発生から5日が経過しており、ライフラインの復旧や地元の病院も診療を再開していました。しかし、余震が頻回に起きており、余震への恐怖で夜になると避難所には多くの方が集まっていました。

地元の方々と話をさせていただき、「食料などの支援物資は届き始めて安心だけど、余震が続き自宅近くの山が崩れてしまいそうで不安だ」と言われ、度重なる余震や今後への不安から不眠を訴えている方もみられました。

DMAT隊の活動

避難所や救護所を巡回し、医療ニーズの有無・被災者の健康状態を把握し、取り残された避難所がないか確認し評価することが私たちの隊に与えられた重要な任務でした。

活動中には震度5強の余震が起き、夜中には地滑りによる避難勧告が出され、サイレンが鳴り続いていました。被災地の方々は毎日この状況の中で過ごされ、不安や恐怖を常に抱えていることを身をもって感じました。



阿蘇医療センター

DMAT活動を振り返って

今回の活動では、急性期から慢性期への移行期であり、医療機器や薬品を使っての医療の提供だけでなく、避難されている方に寄り添い、話を聞くことで不安の軽減や気分転換が図れるような支援の重要性を知ることができました。

今回経験させていただいたことを今後の活動に活かしていきたいと思います。また、今回の活動にあたり、病院スタッフの方々におかれましては忙しい業務の中、快く送り出していただき感謝いたします。



他地域からのDMAT隊と

被災地の一 日も早い復興を心よりお祈りします

西知多DMAT隊 新美 太祐 日高 友里 池野 歓樹 今井 麻美 松葉 貴司

イベント紹介

~6月に公立西知多総合病院で実施したイベントを紹介します~

6月8日（水）

ホスピタリティコンサート

エントランスホールにて、入院患者さんやご家族の皆さんとふれあいながらコンサートを開催いたしました。



職員によるサックス演奏



職員と職員の家族によるフルート・ピアノ演奏



音楽に合わせて体操を行いました。

6月17日（金）

知多半島がん化学療法サポートセミナー

職員を対象にがん診療に関するセミナーを開催しました。

最初に皮膚科、井上医師より「がん化学療法における皮膚科での取り組みと展望」と題した講演があり、次に福井県済生会病院外科、宗本義則医師から「急性期病院のがん診療における理想的なチーム医療」と題した講演がありました。



6月18日（土）

ICLS講習会

「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目的に、実技実習を中心に蘇生トレーニングを行いました。

医師、看護師、救急救命士のみならず、歯科医師や臨床工学技士など様々な医療関係者が参加し、気道の確保、胸骨圧迫による心肺蘇生、除細動器やAEDの使用方法について講習を受けました。



講習会の様子



心肺蘇生実技実習の様子

6月24日（金）

救急・集中治療セミナーin西知多

職員を対象に救急・集中治療セミナーを行いました。

救急治療部麻酔科 新美医師を座長に、秋山医師による「当院ICUによる頻脈治療戦略」の講演、東京ベイ・浦安市川医療センター救急科部長 志賀隆医師による救急の症例やM&Mカンファレンスについて経験を交えた講演がありました。



「当院ICUによる頻脈治療戦略」講演会の様子



部署紹介 病理診断科



当院のフラジャイル！！
病理診断科 溝口良順医師

病理診断科のスタッフは病理専門医2名、細胞診検査士3名、臨床検査技師1名の6名です。

業務は病理診断であり、病気の診断を患者さんの細胞および組織から判断する部門です。

病気の治療方針の決定および治療効果の判定に深く関わり、また手術時の切除範囲の決定も行っております。

大きく細胞診断と組織診断に分かれており、細胞診断は婦人科領域の子宮頸部・体部・呼吸器科の喀痰、泌尿器科の尿、内科・外科・内分泌科の甲状腺、乳腺、リンパ節などの腫瘍、腹水・胸水から採取された細胞の良性・異型・悪性の判断報告をします。

組織診断はおのこの病変部の内視鏡を含めた生検組織、手術組織から良性・悪性を含めた組織病名の診断をしており、それは最終診断報告となることが多いります。

また診断の向上のために主治医、放射線技師・超音波検査技師・看護師の方々とも定期的に臨床病理検討会を開催して緊密な医療連携チームをつくるっております。

時には心肺停止状態で搬送された患者さんおよび病院内で亡くなられた方の死因、病態の把握およびこれから医療の発展のために病理解剖も行っております。



脳神経外科医の介入する、 脳梗塞に対する予防的な治療とは？ (近年増加傾向にある頸動脈狭窄症について)

はじめまして

4月にトヨタ記念病院より赴任いたしました、前田晋吾と申します。脳神経外科全般の広い守備範囲の診療を自負しておりますが、その中でも特に脳血管障害、脳動脈瘤や頸動脈狭窄症の外科的手術およびカテーテル治療を得意分野としております。



①頸動脈狭窄症とは？

頸動脈狭窄症とは、頸部の動脈にできた動脈硬化性変化(粥状変化)により血管が細くなり、脳への血流が低下をきたしたり、破綻した粥腫が頭部血管に飛散し、脳梗塞を起こす病態です。食生活の欧米化や、高齢者の増加と共に近年増加傾向のある疾患です。

どのような症状が出るか？

片側の手足が動かしにくいなどの麻痺、言葉が出にくいなどの失語症状が主に挙げられます。これらの症状が一時的に出現し、すぐに改善するなどの症状もあり、また一時的に目に行く血流が悪くなり片方の視力が低下することなどもあります(一過性黒内症)。

検査法は？

頭頸部MRI、超音波を用いた頸動脈エコーを行います。更なる詳細評価として、造影剤を用いた3次元血管CTアンギオ等を行います。当院には最新式の320列マルチスライスCTが導入されており、詳細な検査を低侵襲に行うことが可能です。

治療法は？

基本的には、一般的に「血液をさらさらにするお薬」と言われている抗血小板剤の内服を行い、予防的な加療を行いますが、高度の狭窄がある場合、また脳梗塞を起こし麻痺等の症状を起こしたことがある場合は、脳梗塞再発を予防する目的で外科的治療を行うことがあります。

外科的治療方法としては以下の2つがあります。いずれの治療法も利点と欠点があり、その都度患者さんに合わせた治療法を選択することが重要となります。

②頸動脈ステント留置術

全身麻酔下に頸動脈を切開、粥腫摘出を行い、頸動脈の拡張を図る治療(図1、図2)



図1 頸動脈内膜剥離術
術中頸動脈所見

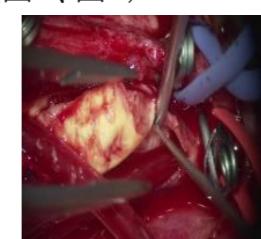


図2 頸動脈切開後、
黄色粥腫

②頸動脈ステント留置術

カテーテルを挿入し、末梢への粥腫飛散防止する為の網状のフィルター(図3)を広げた(図4)後にステント(図5)を狭窄部に留置、「バルーン(図7)」と呼ばれる風船型のカテーテルで頸動脈を広げる治療。

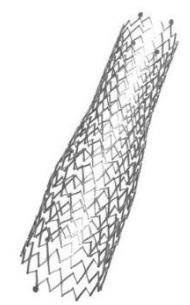
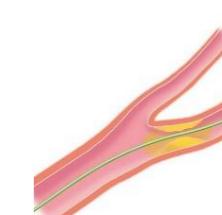


図3 フィルター 図4 末梢塞栓防止用 フィルター展開 図5 頸動脈ステント

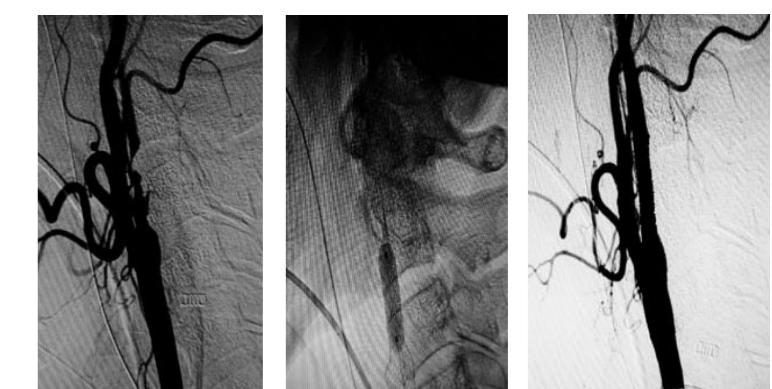


図6 頸動脈ス
テント拡張前

図7 バルーン
にて拡張後

図8 頸動脈ス
テント拡張後

当院脳神経外科の特徴

常勤脳神経外科認定指導医専門医、脳血管内治療修練医計3名にて常に脳神経外科全般領域の治療が可能であり、藤田保健衛生大学からは、毎週金曜日には脳腫瘍を専門とする脳神経外科主任教授外来、毎週木曜日には脳血管内治療指導医による治療指導も行われています。患者さんにあった適切な治療をご提供できる体制が整っています。